



年頭のごあいさつ

北海道林産技術普及協会
会長 高橋二郎

平成2年の新春、明けましておめでとうございます。

会員の皆様には、ご家族ともどもご健勝で、新しい年をお迎えになったこととお喜び申し上げますとともに、今年も皆様にとって良い年でありますように、心からお祈りしております。

さて、昨年は、木材の主要な需要先である住宅産業の好況に支えられ前年度並みの水準を維持することが出来ました。しかし、国内資源の供給減、円高など様々な要因により、本道でも外材依存率は45%に迫ろうとしておりますし、また人工乾燥製材やラワン合板の大量輸入に象徴されるように、加工度を上げた各種木製品が次々と安値で輸入され、道産木製品と、完全な競争状態に入っています。我々木材業界は、いまや如何に国際競争力を身につけるかを問われているのです。

需要面でも、大きな変化が起こっています。道内の工務店さんが、受注はしたものの建て残しがかなり出ており、その理由が、熟練労働者の不足だということです。この結果、加工度の低いものが嫌われ、使いやすい部材が要望されています。こうした面でも、国際競争は一段と激しくなっており、この対抗策も緊急の課題でしょう。

木に対するニーズは、確かに上向いています。使いやすく、デザインも性能も優れている製品を、ユーザーが納得する価格で安定供給すること、これがニーズに応える木材業界の最大の使命です。これは、口で言うほど簡単なことではありませんが、木材の需要拡大への最短距離であることも事実だと思います。当協会は北海道立林産試験場を始め、関係機関のご指導、ご支援を頂きながら、新製品開発の促進、コストダウン、新規需要の掘り起こしに一層の努力を致したいと考えております。

当協会が運営に参加している「木と暮らしの情報館」も、昨年6月3日オープン以来、6か月間に2万人を越す方々がお見えになり、展示品についての質問・相談もかなりの件数にのぼっています。実需に結び付いて行くにはやや時間も必要かと思いますが、今年も展示内容の充実と情報の収集蓄積を計り、木材需要拡大の拠点として皆様のご期待に添えるよう、更に活動を強化してまいります。

年毎に協会事業も充実し、新年度も盛り沢山の計画が組まれております。会員並びに関係諸機関の一層のご支援、ご指導のほどお願い申し上げます。最近の北海道新聞によりますと、今年の木材業界は、「晴れのち曇り」とのご託宣です。確かに先行き不透明で警戒は必要ですが、時代の流れを敏感に読み取り、ニーズに的確に対応することで、必ず乗り切って行けるものと信じています。

会員の皆様のご繁栄をご祈念申し上げ、新年のご挨拶とします。